

## 平成30年度 第1回石狩市民図書館協議会の会議 議事録

平成30年7月25日(木)午後3時より午後4時30分

石狩市民図書館 視聴覚ホール

出席者 石狩市民図書館協議会 会長 青木 貞康  
副会長 木村 修一  
委員 中川 聡子  
橋詰 典明  
早川 久夫  
松谷 初代  
志藤 久美  
中村 友昭  
奥村 佳恵  
森地 亜矢子

石狩市教育委員会 教育長 鎌田英暢  
石狩市民図書館 館長 東 信也  
副館長 清水 千晴  
奉仕兼事業担当主査 岩城 千恵  
事業兼奉仕担当主査 品川 洋之  
事業兼奉仕担当主任 鈴木 美幸

傍聴者 0名

### <会議次第>

#### 1. 報告事項

- (1) 平成29年度事業報告について
- (2) 平成30年度運営の重点について
- (3) 平成30年度事業進捗状況について
- (4) 事業者等からの寄附・寄贈について

#### 2. 協議事項

- (1) 市民図書館アンケート分析について

#### 3. その他

## 1. 開会

**清水副館長**：これより平成 30 年度第 1 回石狩市民図書館協議会を開催いたします。

第 10 次石狩市民図書館協議会の第 1 回目です。これから 2 年間、よろしくお願いいたします。

なお、本協議会委員の委嘱にあたり、皆様への委嘱状を開会に先立ち机の上に置かせていただきましたので、ご確認をお願いいたします。

次に、鎌田教育長よりご挨拶申し上げます。

## 2. 教育長挨拶

**鎌田教育長**：第10次市民図書館協議会の第1回目の会議を開会するにあたり、ご挨拶申し上げます。

皆さま、暑い最中ご出席いただき有難うございます。任期の2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

ご承知かと思いますが、石狩市民図書館は平成 12 年の開館以来 18 年経ちました。この間、図書の貸し出しや読書、調べもの、講座への参加など、日々多くの方に利用されており、いわゆる生涯学習施設としての機能を十分に果たしていると考えております。特に施設の運営にあたりましては、多くの市民、団体やボランティアの皆さんに支えられておりますことに、改めて感謝しているところであります。

今後も様々な事業を通して、市民協働を大切に図書館づくりを目指していく一方、開館当初とは社会情勢や本市をとりまく環境も確実に変化しつつあることから、今後は効率的、効果的な運営に向けて、時代の変化や市民のニーズに即した事業展開が必要ではないかと考えております。そのために、昨年度は市民図書館アンケートを実施しましたが、今回の協議会におきましてはアンケート結果、分析についてもご議論いただくこととなっておりますので、よろしくお願いいたします。

一方、学校図書館について申し上げますと、本市は学校図書館施策にも力を入れております。現在、全ての小学校への学校司書の配置・派遣、大中規模小学校と厚田小学校のあいかぜとしょかんについては、市民図書館とオンラインネットワーク化し、図書データを共有しながら市民図書館から学校へ図書を配達する仕組みを整備しているところであります。

また今年度は、中学校を担当する学校司書を新たに 1 名配置し、巡回により中学校図書館の整備を開始しています。更に、昨年度からは図書費の増額を行い、図書の増冊のみならず、除籍も進め、子どもたちが身近で新しい図書に親しめる環境を整備する取組も進めているところであります。

先日の新聞報道に、「今どきの図書館」として、公立図書館が本の貸し出しに止まらず、子育て・起業支援、若者や高齢者の居場所作りなど、幅広い取り組みが行われ、多様化しているとの記事が掲載されておりました。首都圏の商業施設内に設置された図書館は、テナント店舗との壁が無く、買い物客が気軽に読書に親しんでいるということですが、全国に公立図書館が増えている中、このように複合化している図書館は増加傾向にあるとのこと。一方で蔵書数に

については、財政難もあり 20 年前より 2 割ほど減少しているという記事がありましたので、今後は蔵書の充実も課題となっていくのか、と感じました。

本協議会につきましては、2020 年度から始まる新しい石狩市民図書館ビジョンと、石狩市子どもの読書活動推進計画の策定にあたりご意見をいただくこととなりますが、社会情勢がめまぐるしく変化する時代において、図書館の役割も変わらなければならないものもあれば、変わらずあり続けなければならないものもあるなど、いわゆる不易と流行を身をもって実践していかなければならない時代になってきていると感じます。

生活様式の変化などによる子どもの読書離れや市民の高齢化など、課題は様々ですが、開館 20 周年に向け、石狩市の図書館が担うべき役割や運営のあり方について、忌憚のないご協議をお願いいたし、私からの挨拶とさせていただきます。

### 3. 委員の紹介

### 4. 関係職員紹介

### 5. 会長・副会長の選出

互選により、会長に石狩市保育所連絡協議会の青木委員、副会長に北海道武蔵女子短期大学准教授の木村委員を選出。

**青木会長：**ただいま会長に選出いただきました青木です。振り返ると、早や 4 年も協議会に携わらせていただいております。前任の河村会長のようにより上手に進行できるか分かりませんが、一生懸命務めますのでよろしくお願いいたします。

**清水副館長：**有難うございました。公務の都合により、教育長はここで退席させていただきます。ここから、会長に議事の進行をお願いいたします。

**青木会長：**それでは、本日の予定についてお知らせいたします。

まず報告事項として 1 点目に「平成 29 年度事業報告について」、2 点目に「平成 30 年度運営の重点について」、3 点目に「平成 30 年度事業進捗状況について」、4 点目に「事業者等からの寄附・寄贈について」、最後に「市民図書館アンケートについて」協議する予定となっております。

閉会予定時刻は、16 時 30 分を目処にしておりますので、円滑な協議を進めるためにご協力をお願いいたします。

続きまして資料の確認ですが、図書館から送付されている資料は皆さんお持ちでしょうか。お持ちでない方がいらしたらお知らせください。

では議事に入る前に、図書館から議事録の記録方法について何かありますか。

**岩城主査**：図書館から次の提案をさせていただきます。

市民参加手続上、議事録の記録方法を本会議において決定いただくことになっています。決定にあたっては、会議の経過を詳細に記録する必要がそれほど高くない場合や、情報保護などの上で会議の経過を詳細に記録しないほうが良い場合などは要点筆記とし、それ以外の場合は全文筆記とする、という判断基準があるのですが、本協議会につきましては「全文筆記」で記録する方法でいかがでしょうか。

－異議なしの声－

次に確認方法については、市民参加手続上、図書館で調製を終えたときは、必ず出席された皆様からの確認を得ることとなっておりますが、皆様から確認を取らせていただけてよろしいでしょうか。

－異議なしの声－

確定方法について、内容の確認を得た後、会長の署名により議事録の内容を確定させるという方法で確定させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声－

**青木会長**：以上の方法でよろしく願いいたします。

## ■議事

**青木会長**：議事に入ります。まず、「平成29年度事業報告について」報告を受けます。図書館は説明をお願いします。

**清水副館長**：報告の前に、本日新たに追加いたしました資料について説明いたします。「これからの図書館がめざすもの-石狩市民図書館ビジョン-」「石狩市こどもの読書活動推進計画」ですが、我々はこの2つの計画に基づいて図書館運営を行っております。従ってこれから申し上げる内容も、この計画に沿って報告させていただきます。

### 1 報告事項

#### (1) 平成29年度事業報告について

**岩城主査**：「平成29年度事業報告について」報告いたします。資料1の図書館要覧12ページ以降と、パワーポイントをご覧ください。平成29年度運営の重点に沿って説明いたします。

#### 1 「子どもの学びを支援する」

学校図書館の体制整備ですが、平成28年度で全小学校への学校司書の配置・派遣体制の整備を完了しました。また、大中規模小学校と市民図書館とのオンラインネットワーク化、物流網の整備は平成27年度で完了しています。

文部科学省では平成 29 年度から「第 5 次学校図書館図書整備等 5 か年計画」として、3 つの方針を打ち出しています。国の方針を受け、石狩市の取り組みとしては、学校図書館の図書標準について平成 29 年 4 月に「石狩市独自の考え方」を決定しました。児童生徒にとって魅力のある学校図書館となるよう、これによって蔵書の更新を促進しています。

また、全校に図書費の特別加算を措置し、市独自の考えのもと定めた学校図書館図書標準の達成を目指すとともに、図書の更新、新聞の設置を促しています。

次ページの 3 ページをご覧ください。

石狩市教育プラン、石狩市民図書館ビジョンで図書館運営の成果指標として掲げている「学校図書館図書標準達成校数」は、小学校は平成 28 年度の 5 校から昨年度は 8 校へ、中学校は 2 校から 3 校へ、取り組みの結果、増加しました。

小規模小学校図書館の整備状況は、児童が学校図書館に親しみをもてるような装飾や、特集展示、古い情報が掲載されている図書の廃棄など、多岐に渡って進んでいます。

中学校図書館の整備支援では、花川北中学校からの要望を受け、月 1 回、双葉小学校司書を派遣し、蔵書の整備などを実施しました。

学校司書のスキルアップでは、教育委員会生涯学習部指導担当参事から、「学校司書に期待する授業について」というテーマで研修を受けました。

学校図書館担当者会議は、市内全小中学校の学校図書館担当者などを対象とした会議です。会議では、学校図書館図書標準についての石狩市独自の考え方、図書費の特別加算の主旨、学校図書館の蔵書の増冊・更新に関する方針、学校図書館実務に関し説明しました。

家読（うちどく）の推進につきましては、今年 4 月に小学校に入学する幼児を対象とした「就学時健診」会場へ行き、幼児と保護者、一家庭一家庭におすすめ絵本のブックリストを手渡しました。ブックリストは、本に親しみを持ちづらい家庭をイメージして学校司書とともに作成したものです。また、健診の待合会場では、幼児用、保護者用に多数の本を持参し、展示しました。会場での利用者カードの作成や本の貸出もできるよう準備して行きましたが、利用された方はなく、一方、石狩市民図書館が近いことや、図書館まつりの開催日に重なったこともあり、健診終了後に親子で図書館に立ち寄られる様子が多く見られました。

第 6 回図書館を使った調べる学習コンクール「石狩市コンクール」は、図書館の資料や市内の様々な資源を活用し、調べて、まとめた作品を募集するというものです。このことをとおして、子どもたちの主体的に学ぼうとする意欲を育むとともに、図書館などの利用により情報を選択し、自分の考えをまとめるなど、生涯をとおして学ぶ力を身に付けることを目指しています。この画像は、調べものの進め方を特集展示したものです。またこちらは、夏休み特別講座の様子です。2 日間の開催で過去最高となる 43 名の参加がありました。

コンクールには平成 29 年度は 484 点の作品が集まり、40 点が表彰されました。優秀作品 9 点を全国コンクールに出品し、昨年は一昨年に引き続き、1 作品が佳作の上位にあたる奨励賞を受賞し、その他の 8 作品も佳作に入選しました。

読み聞かせボランティアの研修では、4 団体 24 名が参加し、当別町の私設文庫「ゆめのたね

文庫」を見学しました。

## 2 「資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する」

ご紹介している画像は、本の特集展示「新撰組」、そして、「文学の中の石狩」です。本の特集展示は、2週間をサイクルにテーマを変えて実施しています。テーマ設定にあたりましては、社会や石狩市の動向、市民の関心に敏感に対応するなどをポイントに設定しています。

本のミニ特集展示は、時事や石狩市の事業などに対し、臨機応変に設置しています。

こちらのチラシは、石狩市民図書館のサービスをわかりやすくまとめPRしているものです。

友好図書館交流につきましては、11月17日（金）から19日（日）の3日間、石狩市郷土研究会の村山会長と担当職員が沖縄県恩納村を訪問し、恩納村博物館にて村山会長が「母なる川石狩川と歩む石狩市」と題し講演しました。

## 3 「市民の誰もが利用できるような環境を整備する」

分館でのサービス活性化の取組みの一つとして、花川南分館では、利用者に人気のある文庫本を収集しています。利用者のニーズに応え、取り出しやすく、見やすい場所に文庫本を移動したことは好評を得ています。

また、利用者の利便性を図るため、サービスポイントとして小学校やいしかり砂丘の風資料館など返却場所を市内5か所（南線小学校、緑苑台小学校、浜益小学校、いしかり砂丘の風資料館、ぽぽら一と）に設置しています。

出張貸出では「手話フェスタ」の会場へ出向き、布の絵本の紹介や、手話に関する本を持参しました。

次第3ページをご覧ください。図書館運営の成果指標として掲げている「石狩市の人口に占める利用登録者の割合」ですが、昨年度は17.5%と、減少傾向が続いています。

## 4 「サービスを支える基盤を整備する」

図書館まつりは、毎年、秋の読書週間に合わせ、読書活動の推進を図るため、図書館のボランティア、関係団体と職員から構成する運営委員会により企画・運営しています。平成29年度第18回図書館まつりは、テーマを「まつり」として、10月28日・29日に開催し、2日間で4,986人の来場がありました。毎年好評のマジックショーや、コンサートなど多くの方に参加いただきました。

科学の祭典は、地域で活動する科学グループや指導者、教育関係者などが実行委員会をつくり、図書館職員が事務局員を担い、地域子ども達をはじめとする多くの市民に科学の不思議や面白さ、素晴らしさを体験し、感じてもらおうと開催しており、昨年で7回目になりました。会場は、図書館・子ども未来館「あいぼ一と」です。好天に恵まれ、また同日、子ども未来館「あいぼ一と」前に公園「あいぼ一く」が開園したこともあり、1,900人の来場がありました。

会場内には 30 種類以上の実験や工作ができるブースが、全部で 28 ブース出展されました。昨年は、小学生がこれまでの祭典で最多の 3 つのブースを出展し、16 人の児童が来場者へ教える側として参加し、子どもが大人に、また子ども同士で教えあうという貴重な体験の場となりました。

司書研修では、北海道立図書館職員を講師に招き、レファレンスサービスのスキルアップを目指し、実施しました。また、再度北海道立図書館職員に来ていただき、医療健康情報、ビジネス支援等の事例からレファレンスのポイントを学びました。

市民アンケートは、図書館を利用しない理由、利用者カードの使われ方の実態、来館目的を把握することを目的に実施しました。本日の協議会では、アンケートの分析を協議事項としております

## 5 「利用者の期待に応える蔵書、情報源を構築する」

資料の除籍につきましては、内容が古く、提供に不適切な資料を書架から「特別点検除籍資料」として、除いています。除籍した資料は、来館者に無償で譲渡しています。

雑誌スポンサー制度は個人、法人、その他団体（企業、商店、団体等）の方々に雑誌を提供いただくことで、市民の要望が高く、利用も多い雑誌を地域の支えによって更に充実させて図書館サービスの拡大を図るものです。スポンサーになっていただいた雑誌には、スポンサー名と広告を表示しています。雑誌スポンサーにつきましては、図書館要覧 18 ページに記載しております。

寄附・寄贈につきましても、図書館要覧 18 ページに記載しております。画像は、環商事様からの寄贈図書を展示している様子です。

次第の 3 ページをご覧ください。図書館運営の成果指標「石狩市民図書館の入館者数」について、昨年度は約 1,500 人の減少でした。また、地域行政資料の蔵書点数は、昨年度末で前年度から 642 点増の 30,223 点となりました。

平成 29 年度石狩市民図書館事業報告につきましては、以上です。

**青木会長：**それでは、これから皆様からご質問などをお受けしますが、議事録作成のため録音しておりますので、指名された際はなるべく大きな声で、お名前を言ってからご発言いただきますようお願いいたします。

特に無ければ、次の報告に移りたいと思います。図書館から説明をお願いします。

### （2）運営の重点について

**清水副館長：**資料 2 をご覧ください。

石狩市民図書館ビジョンで掲げる 5 つの柱に対し、現状を踏まえ、今年度の運営の重点及び取り組む事業を設定しております。今年度は昨年度に設定した重点内容が今年も継続して重要

と判断し、継続してまいります。

なお、今年度から初めて取り組む事業として、「柱1. 子どもの学びを支援する」の重点「学校図書館の体制整備」を促進するため、「中学校図書館の体制整備」と「平成32年度統合予定の小中学校図書館の統合に向けた準備」を進めております。中学校については、基本的にひと月単位で一校ずつ巡回し整備を進めております。

次に「推進する取組」については、これら運営の重点を踏まえ、取り組む予定の具体的な事業のうち、主なものを記載しています。ここで詳細な説明はいたしません。昨年行った市民アンケートについては、4ページの「住民調査の実施」の項目に記載しているとおり、委員の皆さんからご意見をいただきながら、アンケート結果の分析、そして図書館サービスへの反映に取り組んでいきます。

**青木会長：**ここまでの報告でご質問等はありませんか。

第1回の協議会ですので、皆さんまだ資料を読んでおられる最中ということもありますが、時間はありますのでゆっくりご確認いただきたいと思います。

特にご質問が無いということですので、(3)平成30年度事業進捗状況について報告を受けます。図書館は説明をお願いします。

### (3) 平成30年度事業進捗状況について

**岩城主査：**それでは、平成30年度事業進捗状況について、説明させていただきます。

資料2、平成30年度石狩市民図書館の運営と、パワーポイントをご覧ください。

#### 1 子どもの学びを支援する

運営の重点は、「学校図書館の体制整備」です。

学校司書については、全ての小学校の図書館への学校司書の配置、派遣を継続していますが、今年度は中学校を担当する学校司書を新たに配置し、巡回により中学校図書館の整備を進めています。

環境整備の状況について、整備前と整備後の比較画像をご覧いただいておりますが、本の表紙を見せる配架を行うことで、生徒が本を手に取りやすくなります。先生からも「こんな本があったんだ」と、あらためて学校図書館の蔵書状況について気付く様子があったとの報告を学校司書より受けています。また、本の並んでいる順番や内容が分かりやすいように、分類番号ごとに見出しを付ける、シリーズものの場所が分かるよう、本の背表紙一冊一冊に青いシールを貼って識別しやすくし、更に見出しを付けるなど、環境整備を工夫して行っています。

また、平成32年4月の学校統合に向け、厚田中学校の図書を電算化する準備も行っています。

学校図書館担当者会議では、平成29年4月に決定した石狩市独自の学校図書館図書標準の考え方、予算増額の主旨、図書の増冊・更新の方針、事前に各校から寄せられた質問への回答など、説明を行いました。

小学校の図書館利用では、学校からのリクエストに応じ、図書館司書が絵本を読み聞かせしています。

## 2 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する

運営の重点は、「情報の発信」です。

チラシでご紹介させていただきましたが、今年は厚田村が生んだ時代小説の巨匠、子母澤寛の没後 50 年にあたることから、あらためて、その偉業や人物像を紹介しています。展示は 8 月 5 日（日）までエントランスホールで開催しています。また、講演会も 2 回にわたって開催します。本の特集展示では、子母澤寛の作品、子母澤寛の異父兄弟である画家の三岸好太郎の作品を合わせてご紹介しており、こちらの展示資料は貸出が可能です。

「開館 18 周年記念 図書館職員のおすすめ本」の特別特集では、ジャンルや分類などを指定せずに職員がおすすめする本を収集したところ、バランス良い内容で 100 冊ほど集まり、来館者にも好評でした。

## 3 市民のだれもが利用できるような環境を整備する

運営の重点は、「分館でのサービス活性化」です。

浜益分館では、地域団体と共同で「史跡ハママシケ陣屋跡」展示を実施しています。また、夏休み期間には、子ども向けのイベントを開催する予定です。

## 4 サービスを支える基盤を整備する

運営の重点は、「市民協働による事業展開」です。

科学の祭典 in 石狩は実行委員会を組織し、また図書館まつりは、図書館関係団体やボランティアで構成された運営委員会によって、イベント開催の準備を進めています。

## 5 利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する

運営の重点は、「魅力的な蔵書・情報源の構築」です。

司書研修では、先日、東京から講師を招き、コンピュータ処理可能な書誌情報に関して研修を行いました。

平成 30 年度石狩市民図書館事業進捗状況の報告につきまして、以上です。

**青木会長：**有難うございました。何かご質問ありませんか。

**木村副会長：**先ほど学校図書館担当者会議の写真がありましたが、どのようなメンバー構成になっているのか教えてください。

**岩城主査：**各校の学校図書館担当の教諭と、学校司書から構成されております。

**青木会長：**他にご質問が無いようですので、(4)事業者等からの寄附・寄贈について報告を受けます。図書館は説明をお願いします。

#### (4) 事業者等からの寄附・寄贈について

**品川主査：**それでは、昨年度開催された第2回石狩市民図書館協議会にて報告した以降に、寄附・寄贈いただいた内容について報告いたします。次第4ページをご覧ください。

はじめに「寄贈」について報告いたします。平成30年3月3日、特定非営利活動法人ひとまちつなぎ石狩様より、一般書23冊を寄贈いただきました。

次に「寄附」について報告いたします。平成30年6月27日、株式会社ワールドウッティ様より10万円を寄附いただき、一般書1冊、複製絵画13点を購入いたしました。お手元の資料を作成した時点では、一般書及び児童書の購入を検討しておりましたが、寄附者であります株式会社ワールドウッティ代表取締役の石塚氏が美術品の収集家で美術に造詣が深く、当図書館においてその一部を借り受け、利用者の方々に対し特別展示を行うなど、これまでの石塚氏との関わりを考慮し、予定を変更し複製絵画の購入を行いました。

なお、今回ワールドウッティ様よりお借りしました作品、おおば比呂志氏と竹久夢二氏の屏風絵につきましては、貴重品ということもあり、図書館館長室にてそれぞれ1日のみの展示を行いました。

**青木会長：**ここまで「平成29年度事業報告について」報告いただきましたが、ご質問、ご意見ございませんか。それでは、協議事項に入ります。

## 2 協議事項

**青木会長：**(1)市民図書館アンケート分析について報告を受けます。図書館は説明をお願いします。

**清水副館長：**市民図書館アンケート分析について報告いたします。なお、本日の協議案件については、本日が今期の協議会委員の任期初回の会議であること、そして協議いただく内容が今後の図書館運営に向け重要であることを踏まえ、今後も継続協議が必要と考えており、まずは図書館の考えを聞いていただくのが第一義と考えております。

資料、説明のボリュームが多く、今日の段階で協議いただくのは難しいとは思いますが、次回も継続して協議を予定しており、ざっくばらんにご意見いただきたいと思っております。

資料3のアンケート実施要項をご覧ください。新しく委員に就任いただいた方も多数いらっ

しゃいますので、まずはアンケートの概要をご説明いたします。

このアンケートの実施については、平成 26 年度に第 8 次協議会に対して行なった、図書館ビジョンの改訂についての諮問に対する答申を受け、現行ビジョンに盛り込まれたものであります。現行ビジョンの期間 5 年間の中間年にあたる昨年、実施しました。

実施の背景やねらいは、市民図書館の利用に関するアンケート実施要項の 2 に記載しておりますが、平成 12 年の開館以来、厚田・浜益村との合併による行政面積の拡大や、高齢化の進展など、本市をとりまく環境は確実に変化しており、今後も引き続き多くの市民に利用されるよう、時代の変化や市民のニーズに対応して適切に事業展開を図るための実態把握のために行ったものです。

特に次の 3 つの点に着目して行いました。

- (1) 非利用者が利用しない理由の把握。図書館を利用しない人はなぜ利用しないのか。
- (2) 利用者カードの使われ方の実態把握。他の自治体に比べ登録率として現れている数値が低いのは、市民図書館は 1 人の貸し出し冊数の制限がなく、何冊でも借りられるので、家族で 1 枚といった、家族カード的な利用実態があるためではないか。
- (3) 利用者の来館目的の把握。市民図書館は道内でも来館者の多い図書館だが、こういったところが評価されているのか。

対象・手法については、満 20 歳以上の石狩市民 2,000 人。性別、年代は均等に、居住地区は人口構成比に比例した割合で無作為抽出。期間は昨年の 10 月中の 2 週間に行いました。

次にアンケートの回収状況の概要をご説明いたします。

送付者 2,000 人のうち、507 人、25.4%の方から回答を得、性別は女性が 6 割、男性が 4 割。年代で見ると、回答者の割合は年代が高い方が多くなっております。

「単純集計の結果」は、お手元の資料の 3 ページ以降にまとめています。本日は、要項で定めた実施のねらいに対する見解をお伝えします。資料は、前協議会会長で北海道武蔵女子短期大学、図書館情報学の河村教授が分析してくださっており、その内容を踏まえて作成しました。

最初に、ねらいの 2、利用者カードの使われ方の実態把握についてですが、他の自治体より登録率が低い主な理由として予想していた、利用者カードの家族利用の実態が、アンケート結果により明らかになりました。

本市では貸し出し冊数の制限をしていないので、こういった利用のあり方、特に小さな子どもさんのいる家庭では親が子どもの分も一緒に借りるという利用の仕方が一定程度あり、一方、他の自治体では貸出冊数の上限を決めている自治体が多いため、同様の状況はあると思いますが、その割合は当館の方が多く、登録率にも影響していると考えています。

なお、市民の登録率が下がっている理由については、今回の結果をみても、確定的な理由は

判明しませんでした。他の2つのねらいに対する分析を踏まえ、市民の利用促進を行う中で登録率はあげていけるものと考えております。

次に「(1) 非利用者が利用しない理由の把握」と「(3) 利用者の来館目的の把握」について、特に性別や年代から分析を行った結果から、今後、市民の利用促進を行うにあたってターゲット設定したものをご提示いたします。

ここからは、色刷り資料を使ってご説明いたします。

まずは「特定ターゲットと実態、課題、取組み」の資料、次に「アンケート集計結果」、そして「問3 図書館に行く目的」「問4 図書館に行く理由」「問5 図書館で気に入っていること・もの・サービス」「問12 市民図書館へご意見、ご要望等」です。「問」で始まっている4種類は、アンケートのそれぞれの問いに対する自由筆記内容を、世代ごと、また世代によっては検証の必要性から女性のみをまとめたものになります。「問3」「問4」で色づけている内容は、黄色は3割以上の人から選ばれた、意見の多かったもの、ブルーは他の世代と比べその世代特有のものに色を付けています。「問5」「問12」は、自由筆記内容について、右側に記載したテーマ毎に、どういった意見が寄せられたか、世代ごとにまとめています。

まず、「特定ターゲットと実態、課題、取組み」の資料をご覧ください。

1ページ目では、アンケート結果を踏まえ、図書館が今後、利用促進のために働きかける性別・年代として5つのグループを想定しました。

上の2つ、①の60代以上の高齢無職男女、そして②の30代から60代の家事専業や被雇用者の女性は、河村教授の分析を参考に、効率的に利用促進が期待できると考えるターゲット。以前は図書館を利用していたが、今は子育てや仕事、その他の理由で利用しなくなったというグループです。

なお、【河村】と記載しているのは、河村教授の論文から引用しているものです。

一方、利用促進は難しいが図書館として重点的に対策の必要性を感じるグループが下の3つ、「③子ども」、「④子どもの保護者」、「⑤若年層（インターネット・スマホ世代）」です。

こちらは、即効的な利用促進は難しいが、図書館として、重点的に対策を講じる必要性を感じたグループです。未来を担う世代に対し、図書館の役割はどうあるべきかという課題そのものであります。

続けて各ターゲット毎に見ていき、現状や、利用しない理由、課題を確認し、必要な取組みについてご意見いただきたいと思っております。

まずは2ページ目、ターゲット①の、以前は利用していたが今は利用していない、60代以上の無職男女の利用促進についてです。アンケート結果からは、年代があがるにつれて利用しな

くなっていることが分かりました。利用しなくなる理由としては、年齢があがり来館が難しくなったことや、身体的に本を読むのが困難になったことがあげられています。利用促進に向け、この課題を解決するには何ができるか、ご意見をいただきたいと思います。

図書館で考えた視点としては、まず「①ターゲットを意識した蔵書の充実」です。「アンケート集計結果」の6ページの間9を見ると、選択肢⑤の大活字本、大きな字で書かれた本を希望する方が回答者の1割以上いましたが、こういった本や朗読CD、軽い文庫が好まれるのではと考えております。また、問10を見ると、要望が多かったのが「趣味・娯楽」「文学」「医療・健康」と続いています。また「問3 図書館に行く目的」の9から11ページをご覧ください。60代以降は「趣味等の調べもの」を目的に来館される割合が、他の世代に比べ多くなっていることが分かりました。また、「問12 市民図書館へご意見、ご要望等」の8ページをご覧ください。右側に記載したテーマの、左から3つ目、蔵書に対するこの世代の意見を中ほどから下に記載していますが、「園芸等の本が古いので行かなくなった」や「趣味の本は古いものが多く参考にならない」という意見もあり、趣味の本の充実は、この世代の利用促進に効果的と思われる。

もう一度資料2ページ目に戻ります。次の「②非来館型サービスのPR」では、遠くの本館に来なくても、近くの方館で受けられるサービス、例えば分館で本館の本が取り寄せられるといったことや、電話で貸出し期限の延長ができることなどのPRが考えられ、次の「③非来館型サービスの拡充と展開」では、返却場所の拡充などが考えられます。

**青木会長：**分析内容について非常に多くの資料を、この場で全て確認するのは大変かと思われませんが、ご覧になられてご意見、ご質問等はありませんか。

**松谷委員：**私は、石狩市民以外の方と図書館でお会いすることが多いのですが、石狩市民か市外からの来館者なのか、その配分は分からないのでしょうか。

**清水副館長：**来館者の市民割合はカウントできませんが、利用登録者の割合は全体の5割強が市民、5割弱が市外の方となっていますので、来館者数も市民と市外居住者は、ほぼ半々と考えられます。

**青木会長：**そのほか意見等ございませんか。一番大事なのは、この分析結果を基にこれからどうしていくべきか、ということだと思いますので、委員の皆さんからも要望がありましたらお願いします。

**清水副館長：**ひとまずターゲット①についてまで説明させていただきましたが、資料の数が多く、また今回は初めて本協議会に参加いただく方も多いため、本日はアンケート結果についてでなくても結構ですので、ざっくばらんに様々な意見をちょうだいしたいと思います。

**志藤委員：**小学生を持つ親として、校区外にある本館へ子ども同士では行きにくいという声を耳にします。また、本館・分館以外の返却ポストを知らない人も多いと感じます。野菜を買う目的で来館している利用者もいると思いますが、そういった情報も含めて、図書館の情報をもっとPRをしていくことで利用者も増えるのではないかと考えます。

**橋詰委員：**アンケートの回収率25%という結果をみて、この結果が市民の声としてどこまで反映しているものなのか若干疑問に思うところではありますが、回答内容を見ますと面白い意見が沢山寄せられていたり、貴重な意見もあると思いますし、この回収率にしては良い意見が出ているので、実施の意義が出ているのかなと感じました。

アンケートにとらわれずに意見を、とのことですが、私はそのほうが大事だと思います。結果に左右されないで、こちらが何を目的にどのようなものを提供していきたいのかを明確に打ち出されることが大切だと思います。利用率は高く、活用はされている訳ですね。そこで満足度はどうなのか。利用率を上げたいのか満足度を狙うのか、世の中の多様化を考えると市民の意見を足がかりにして、今後どう進むべきか考えていければ良いのではないかと思います。

**早川委員：**来館しなくなった理由に、新しい本が少ないなどの意見がありましたが、団塊の世代層は様々な趣味を持っている人も多いので、趣味に関する本を充実させたり、年金生活の高齢者にとっては高額で購入をためらうような本も、新刊入荷情報として広報などでお知らせすると良いのではないのでしょうか。

また宅配サービスだけでなく、学校図書館巡回車を利用して、学校を貸出ポイントとして利用できるようなると良いと思いますし、検索システムも自宅で検索が可能になれば、更に便利だと思います。

**奥村委員：**「広報いしかり」は、市民はもちろん転入者も目にするので、新刊情報・特集・図書館のサービスを紹介していったら良いと思います。利用している人にとっては当たり前の情報でも、来館したことの無い人などにとっては目新しい情報があると思います。

**青木会長：**いろいろなご意見ありがとうございました。予定時間も押し迫ってまいりましたので、次に進めたいと思います。

**清水副館長：**では、以降はポイントのみお伝えいたします。

3ページ目では、以前は利用していたが今は利用していない、30 から 60 代の家事専業や被雇用者の女性について分析していますが、この世代は働きかけ次第で、また利用していただける可能性があると思われます。

また、4ページ目にあります、将来の利用を見据え、図書館として重点的に対策を講じる必要を感じたターゲット「③子ども」ですが、現状として、図書館が子どもに果たす役割を期待する声は大きいことが分かりました。反面、先ほどご意見もありましたとおり、子ども一人では図書館行けないといった課題もあります。こういった環境の子どもたちの読書活動を支援していくために、図書館は何が出来るのか。このターゲットは合わせて次の「④子どもの保護者」、子どもを同行される保護者の意識も合わせて考えてみたいと思っています。

最後に6ページ、インターネット、スマホに小さい頃から親しんでいる「⑤若年層」に対する取組み。様々な調査で、若い世代の読書離れが指摘されていますが、一方では本を読む人と読まない人の二極化も進んでいるという結果もあります。なお、「スマホ世代」という言い方をしましたが、今年の2月に発表された、大学生の読書時間に関する調査結果では、大学生の本離れの要因として、「スマホ時間の影響は強くなく、むしろ高校までの読書習慣が全体的に下がったことが影響している」という見解も出ているようです。

**青木委員：**ご意見等がございましたらお願いします。

**中川委員：**私もアンケートの回収状況を見て回答率が低いのではと思いましたが、回答されている方は何かしら要望のある方で、返送のない方は不満が無い、若しくは興味が無い方。この興味が無い方へのきっかけづくりが大事なのではないかと思います。

全体を通して、やはり高齢化が進んでいることが原因かと感じました。以前運行していた循環バスの活用ができれば、来館しやすくなるのかもしれませんが。

また、読書好きな子どもは大きくなっても本を読むと思うので、まず図書館に来て本を読むきっかけを作り、読書好きの子どもに育てる必要があると思います。

**東館長：**貴重なご意見を沢山いただき、有難うございました。

アンケートそのものは、前の期の委員の皆さんにご意見いただいて、実施したという経緯ですが、ご覧のように、非常に興味深い示唆に富んだ回答結果となったと感じております。

本日、あらためてPRの問題や場所、蔵書の充実とはなど、その総体について図書館が今後どのように考えていくのかといったご意見をいただいたと思います。またアンケート結果で、

少なくとも図書館が評価されているということも分かりましたし、そうでもない所も読み取れると思います。そのあたりをもう少し深彫りしながら、具体的にどのようなところを伸ばして、どうアプローチしていくのか、2020年から更に多くの方々に利用、活用してもらえる図書館を目指して、皆様のご意見をいただきながら整理していきたいと思っておりますので、沢山の資料で恐縮ですが、今後の取り組みについて参画いただければ有り難いと存じます。

どうぞよろしく願いいたします。

**青木会長**：今回発言できなかった方については、次回の協議会でまたご意見を伺いたいと思います。その他、図書館から何かありますでしょうか。

**岩城主査**：図書館から議事録について連絡事項をお伝えします。

本日の議事録は図書館で作成し、ご出席いただいた委員の皆様へ第1次原稿を何らかの形で送付させていただきます。ご自分の発言を中心にご確認ください、ご返信いただいたのちに、最終原稿を青木会長にご確認のうえ、署名していただきます。署名したものを、再度皆様へ送付させていただきます。

**青木会長**：次回の協議会はいつになりますか。

**岩城主査**：次回の会議についてご説明します。平成30年度第2回図書館協議会は12月頃の開催を予定しております。近くなりましたら日程調整のため、皆様にご都合を伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

**青木会長**：以上をもちまして、平成30年度第1回石狩市民図書館協議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

平成30年 8月21日

会議録署名委員

会長 青木 貞康